

EMT981 再生系の再構成(17)

－ハイドンを聴く(8)－

1. はじめに

前報(3)において EMT981 から Truphase を経て 300B アンプまでのバランス伝送が実現した機会に、手持ちの CD を聴き直していくことにしました。今回も、しばらく聴いていないハイドンの作品を聴いていきます。

2. EMT981 の試聴方法

今回、Autograph MINI での試聴を行います。

EMT981 の再生では、前報(7)と同様に前報(2)の再生ルートとします。

EMT981(*)→TruPhase→.300B

* : GPS-777 より CCD-6 経由でクロック入力

古い録音で定位などに違和感が感じられるときは TruPhase で位相を反転します。

再生する CD はハイドンの弦楽四重奏曲です。

Camerata CMCD-28278

ハイドン 弦楽四重奏曲 第 77 番 作品 76.3<皇帝>

ウイーン弦楽四重奏団

DENON COCO-80635-36

ハイドン 弦楽四重奏曲 作品 76 第.75 番～第 80 番

<エルデーデー四重奏曲>

クイケン四重奏団

3. EMT981 の試聴結果

ウイーン弦楽四重奏団は、2010 年の録音で、ベートーヴェンのラズモフスキー 1 番も収録されており、演奏会で求めてきたものです。ウイーン弦楽四重奏団の演奏は、生演奏の印象通り、練達のグループでおだやかでゆったりとした演奏です。クイケン四重奏団盤は、6 曲のエルデーデー四重奏曲集で 1995 年から 1996 年にかけての録音です。第.76 番は五度、第 77 番は皇帝、第 77 番は日の出です。恐らくはガット弦でのヴィブラートも抑え気味で、透明度が高く澄んだ音で、しっとりと演奏しています。

4. まとめ

クロック入力した EMT981 からのバランス接続の効果で、二つの盤ともデジタル臭さを感じないすっきりとした艶やかな音が楽しめます。

以上